

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

|         |                    |            |             |
|---------|--------------------|------------|-------------|
| 事業所番号   | 4270300421         |            |             |
| 法人名     | 有限会社 グループホームふるさとの家 |            |             |
| 事業所名    | グループホーム「城下」しまばら    | ユニット名      |             |
| 所在地     | 島原市新港2丁目丙1740番地1   |            |             |
| 自己評価作成日 | 2020年10月15日        | 評価結果市町村受理日 | 2020年11月27日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

|          |   |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | <a href="http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do">http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do</a> |
|----------|---|

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

|       |                        |       |             |
|-------|------------------------|-------|-------------|
| 評価機関名 | 一般財団法人 福祉サービス評価機構      |       |             |
| 所在地   | 福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F |       |             |
| 訪問調査日 | 2020年10月31日            | 評価確定日 | 2020年11月19日 |

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の皆様やご家族様に、安心して頂けるよう、お一人、お一人の生活歴を全職員が十分に把握し、その方に合った日常生活をして頂き、自由な時間を楽しく過ごして頂いています。また、毎月の活動としては、音楽療法、瑞宝太鼓、大人の学校、ドライブ、地域の行事などに参加して、生活を楽しくして頂いておりましたが、コロナウイルス感染症流行以降は、外出を自粛し、デッキでの「城下」しまばら独自での音楽療法や「城下」農園の掘り立て野菜を使用した温かい料理を食べて頂き、四季折々の行事も行い、利用者様の笑顔の絶えない潤いのある生活を支援させて頂いております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“グループホーム「城下」しまばら”は開設から17年を迎えている。管理者を中心に職員は結束し、理念である「老いても障害を持って自分らしくあたり前に普通に暮らしたい」を大切に、日々優しいケアを続けている。ご利用者同士の助け合いもあり、ご利用者が料理指導もして下さる。花好きな方には花を生けて頂き、野菜作りに興味がある方には「城下」農園の見守りや野菜の生育について教えて頂いている。2019年からホームでの調理を再開し、3食とも手作りしており、ご利用者も包丁でごぼうそぎや皮むき、盛り付け、下膳、食器拭き等をして下さる。ご利用者の指導のもと、干し柿作りや甘酒作り、梅干しを行い、ご利用自身が主役になれる生活が行われている。コロナ禍以降は“「城下」しまばら”独自の音楽療法を行い、楽しんで頂いており、長く勤務する職員が多い中、新しい職員もチームの一員として溶け込み、職員個々の役割を發揮して頂いている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目   | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印   | 項目  | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印   |
|--|---|---|---|
| 56<br>職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる<br>(参考項目:23,24,25)       | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の<br>2. 利用者の2/3くらい<br>3. 利用者の1/3くらい<br>4. ほとんど掴んでいない | 63<br>職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている<br>(参考項目:9,10,19)   | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と<br>2. 家族の2/3くらいと<br>3. 家族の1/3くらいと<br>4. ほとんどできていない    |
| 57<br>利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある<br>(参考項目:18,38)              | <input type="radio"/> 1. 毎日ある<br>2. 数日に1回程度ある<br>3. たまにある<br>4. ほとんどない                | 64<br>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている<br>(参考項目:2,20)                     | <input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように<br>2. 数日に1回程度<br>3. たまに<br>4. ほとんどない                  |
| 58<br>利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている<br>(参考項目:38)                   | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない  | 65<br>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている<br>(参考項目:4) | <input type="radio"/> 1. 大いに増えている<br>2. 少しずつ増えている<br>3. あまり増えていない<br>4. 全くない            |
| 59<br>利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている<br>(参考項目:36,37)    | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない  | 66<br>職員は、生き活きと働いている<br>(参考項目:11,12)                                      | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が<br>2. 職員の2/3くらいが<br>3. 職員の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない       |
| 60<br>利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている<br>(参考項目:49)                  | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない  | 67<br>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う                                       | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    |
| 61<br>利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている<br>(参考項目:30,31)         | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない  | 68<br>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う                                   | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が<br>2. 家族等の2/3くらいが<br>3. 家族等の1/3くらいが<br>4. ほとんどできていない |
| 62<br>利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている<br>(参考項目:28) | <input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない  |   |   |

## 自己評価および外部評価結果

| 自己                 | 外部  | 自己評価  |  | 外部評価   |  |
|--------------------|-----|---|--|--|--|
|                    |     |   | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容  |
| <b>I. 理念に基づく運営</b> |     |   |  |  |  |
| 1                  | (1) | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている                            | 「老いても障害を持ってもあたり前に自分らしく普通に暮らしたい」を基本理念とし、毎朝、朝礼時、唱和し、全職員が共有実施している     | 理念の中の「当たり前」という言葉には、日本ならではの風習や季節の行事等も含まれる。ご利用者個々の生活習慣を教えて頂き、「自分らしく普通に暮らしたい」と言う実践を続けており、野菜や花を育てたり、調理等も一緒に楽しまれ、毎日仏壇にお題目を唱えている方もおられる。          |  |
| 2                  | (2) | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している                            | 去年までは事務所主催の各種行事や地域の行事への参加を行ったが、今年はコロナウイルスの感染防止の為、地域との交流はあまり出来ていない。 | 道路向かいの方から切り花を頂き、手作りの饅頭等をお返ししている。コロナ前は地域の方が夏祭りや餅つきを手伝って下さり、神社のお神輿がホームに来て、ご利用者もお賽銭を入れていた。ご利用者と地区の運動会の応援、地区のお祭り、避難訓練、鬼火等に参加していた。              | コロナ収束後は、地元の安仲保育園との交流方法を検討したり、毎年参加している市民清掃時(年2回)に、より広く2丁目の住民の方々にご挨拶し、更なる地域交流を行っていきたいと考えている。     |
| 3                  |     | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている                          | 中高生の福祉体験学習や高校生福祉課の研修を積極的に受け入れ、多くの方に勉強して頂けるよう機会を設けている               |  |  |
| 4                  | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている       | 2ヶ月に1回開催し、利用者の状況や行事報告など行い、皆さんの意見を聞き、サービス向上に活かしている。                 | 地域の方々にホームの取り組みを理解して頂き、色々なご意見を頂いている。外部評価結果も報告し、「施設の状況を第三者から見てもらうのは、施設運営のために良いことかもしれませんね」等のご意見を頂いた。災害対策(自然災害等)も話し合い、地域情報も教えて頂いている。           | 今後も更に地域の方々との情報交換を深めていきたいと考えており、現在の参加者と共に、自治会長、老人会長、婦人会長等にもお声かけし、議題に応じて参加頂けるような取り組みを続けていく予定である。 |
| 5                  | (4) | ○市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる                  | 運営推進会議には行政担当者も出席されるので、ご連絡事項や色々な情報を伝えてもらう事で協力関係を築けるよう取り組んでいる。       | 専務や施設長、管理者等が行政(支所)を訪問し、広域等からコロナ関連のアドバイスを頂いている。中学生の福祉体験学習や県立高校福祉課の研修を受け入れると共に、島原市GH連絡協議会の運営に管理者が携わり、研修担当の役割を担っている。                          |  |
| 6                  | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束虐待廃止委員会を設置し、年4回の会議、研修を行い、身体拘束をしないケアに取り組む意識向上を図っている             | 身体拘束廃止・虐待防止委員会(年6回)や勉強会を続けている。様々な事例検討を行うと共に、2020年度の職員の年間目標は「ストレス発散、ため込まない」であり、職員個々のストレスケアも続けている。ご本人の「～したい」という気持ちを尊重し、職員が率先してサポートするようにしている。 |  |
| 7                  |     | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている       | GH連絡協議会主催の研修や法人内研修に参加し、日頃から言葉や身体的虐待がないよう、管理者、職員が注意を払っている。          |  |  |

| 自己 | 外部  |  | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|----|-----|--|--|---|-------------------|
|    |     |  | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8  |     | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している    | 研修に参加し、制度の理解は出来ているが制度の必要性が見られる利用者が居られたら関係者と話し合い、活用を支援していく。                   |   |                   |
| 9  |     | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている                         | 施設長や管理者が相談時に詳しく、説明を行い、理解、納得を得られるよう努めている。                                     |   |                   |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている                     | ご家族の面会の際、利用者本人様のご様子など、お気付きになられた事や意見や要望をお尋ねしている。また運営推進会議でもご家族代表の意見も運営に反映している。 | 新聞(2か月に1回)と職員の手紙(毎月)を郵送し、日々の暮らしぶりを報告している。コロナ以前の面会時は、ご本人と家族と一緒に過ごせるように努め、家族の方が帰られる時に要望等を伺っていた。コロナ禍においてもリビング等の窓越しで面会したり、電話連絡を続けている。 |                   |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている                                      | 毎月職員会議を行い、個々の職員が意見を述べられる機会を設けている   | 施設長や管理者のお人柄もあり、要望を伝えやすい環境が作られ、専務とお会いする機会も毎月ある。管理者を中心に結束し、職員個々の目標も作られている。各担当者会議(行事、身体拘束廃止委員会等)もあり、レク、音楽療法含めて職員個々の役割を發揮している。        |                   |
| 12 |     | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている      | 個々の職員の能力や生活環境に合う労働条件で雇用し、有資格者には手当を付けている。                                     |   |                   |
| 13 |     | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている         | いろんな研修を受ける機会を設けて下さり、研修で学んだことをケアに活かしている。                                      |   |                   |
| 14 |     | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 施設長会議には施設長又は管理者が参加して意見交換をしたり、外部研修などで他施設の職員と意見交換する場がある。                       |   |                   |

| 自己                          | 外部  | 自己評価   |  | 外部評価  |                   |
|-----------------------------|-----|--|--|---|-------------------|
|                             |     | 実践状況   |  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> |     |  |  |   |                   |
| 15                          |     | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 意思疎通の出来る方には本人にそれとなく尋ねたり、そうでない方には基本情報を参考にし、アセスメントを行い、最も必要にされている支援を確保できるよう努めている。 |   |                   |
| 16                          |     | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている            | ご家族の心配事や困っていること、要望なども傾聴し、信頼関係の構築に努めている。  |   |                   |
| 17                          |     | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている        | 基本情報から情報収集し、アセスメントを行い、ケア会議で必要とされている支援を見極め支援している。                               |   |                   |
| 18                          |     | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている                        | 家事作業など出来る事は一緒に行い、お互い気さくに接することができるよう支援している。                                     |   |                   |
| 19                          |     | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている         | ご家族の思いやご意見を十分に聴き、職員の思いも伝え、共有し、共に支えて行ける信頼関係が出来ている。                              |   |                   |
| 20                          | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている                     | 馴染みの方の訪問時にはゆっくり過ごして頂けるよう、環境作りに努め、馴染みの場所にも希望に応じた支援をしている。                        | ご利用者に風習や慣わしを教えて頂いたり、野菜の収穫等もして頂いている。コロナ以前はお祭りの時に知人と再会したり、馴染みの島原城、お店、公園等にお連れしていた。親戚の美容室に定期的に行かれたり、家族の命日に自宅に帰省し、法事や墓参りに行かれた方もおられる。 |                   |
| 21                          |     | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている                 | お一人お一人が孤立されないよう、職員が間に入り、関わり合い、支え合えるよう支援している。                                   |   |                   |

| 自己                                 | 外部   |  | 自己評価  | 外部評価  |   |
|------------------------------------|------|--|---|---|---|
|                                    |      |  | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容   |
| 22                                 |      | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている                    | 必要に応じて、ご家族や担当者には生活方法などの助言や情報を提示し、支援している。                        |   |   |
| <b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |      |  |   |   |   |
| 23                                 | (9)  | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している   | お一人お一人の希望や意見に添えるよう努めているが、困難な場合もあり、極力要望に添えるよう支援している。             | 職員はゆっくりとご本人の思いを伺っている。「お墓参りに行きたい」「自宅の仏壇に参りたい」「お花見に行きたい」等の思いが聞かれ、家族と話し合い、願いを叶えるように努めている。「ずっとここ(ホーム)にいたい」「ここ(ホーム)で暮らせて私は幸せ」等のお言葉も聞かれている。 |   |
| 24                                 |      | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている                                       | 基本情報やサービス提供表、又はご本人やご家族にお尋ねする事で把握し、ホームでもこれまでの暮らしを継続できるよう支援している。  |   |   |
| 25                                 |      | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている   | お一人お一人の過ごし方や表情、バイタルチェック、朝礼時の申し送り等で状態を把握し、無理なく過ごして頂けるよう努めている。    |   |   |
| 26                                 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 各職員が担当を持ち、毎日の生活の中で気付きや課題とケアのあり方など話し合い、ご家族の意見を参考にして、介護計画を作成している。 | 担当者がアセスメントし、職員全員で検討している。日々の役割、散歩やドライブ、洗濯物たため、歌なども計画に盛り込み、音楽療法や瑞宝太鼓等の参加も記入している。前回の外部評価以降、日課表に各活動の「できること」「留意点」を増やされている。                 | 今後も【基本情報1】に生活歴を増やすと共に、アセスメントにADL(立位・歩行等)、IADLの「能力」「できそうな事(可能性)」「介助理由」「目標」「解決策」等の記録を増やしていく予定である。 |
| 27                                 |      | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている                        | 毎日の生活状況、体調変化、感情面など、詳細に記録し、全職員が共有し、ケアを実践、介護計画の見直しに活かしている。        |   |   |
| 28                                 |      | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる               | 病院受診や理、美容室の利用やその時のニーズに対応し、柔軟な支援に取り組んでいる。                        |   |   |

| 自己 | 外部   |   | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|----|------|---|---|---|-------------------|
|    |      |   | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 |      | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している  | コロナウイルス感染症流行以前は近隣の公園や地域の施設を利用し、生活の質の向上に努めていた。   |   |                   |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している   | 基本的には今までのかかりつけ医にお願いしている。又、かかりつけ医をもたない方には当施設の協力医にお願いして、いつでも医療が受けられるよう支援している。           | 24時間体制で管理者、施設長、主治医、代表等に相談でき、夜中も往診して下さる。法人の看護師から適宜指示を受ける事ができ、家族との情報共有もできている。医師の指示のもと、日々職員が目薬や内服等の管理を徹底し、次第に元になられる方が多い。   |                   |
| 31 |      | ○看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している                                    | 毎日のバイタルチェックで異常があれば法人の看護師に報告し、指示を仰いでいる。  |   |                   |
| 32 |      | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。           | 入院時はDrや看護師との情報交換を行い、退院後のケアにおいても、Drや看護師からの情報を共有し、利用者を支えている。                            |   |                   |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる            | 入居前に看取り支援の説明を行っている。施設での看取りを希望される方や重度化の恐れがある場合には、ご家族、主治医、管理者で十分に話し合いを行い、希望に沿える支援をしている。 | 「最期までここで」と希望される方がほとんどで、体調変化に応じて家族との話し合いを続けている。主治医も24時間体制で訪問して下さり、急変時は看護師(代表)と管理者も駆けつけて下さる。必要時にかかりつけ医の看護師が点滴して下さり、家族も一緒に誠心誠意のケアが行われている。  |                   |
| 34 |      | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている  | 外部研修で勉強したり、施設での急変や事故発生事例を作成し、朝礼時、職員が交代で通報訓練を行い、早期対応出来るよう実践力を身に付けている。                  |   |                   |
| 35 | (13) | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている<br>また、火災等を未然に防ぐための対策をしている | 年に6回、自主訓練や消防署、地域を入れての訓練を行っている。又、情報収集を行い、施設の設備を全て整えている。                                | 昼夜想定で自主訓練(年6回)を行い、年2回は消防団・消防署・地域の方と4棟合同の避難訓練をしている。土砂崩れ等を想定した訓練も行われ、各棟の代表(男性職員)が災害対策を毎月検討し、地域の避難訓練にも参加している。災害に備えて防災頭巾、食料、災害バックや独自の持ち出し品、災害時に受け入れる系列事業所の利用者情報シートを準備している。夜勤者が防火自主点検チェックを続けている。 |                   |

| 自己                               | 外部   | 外部評価  |   |   |
|----------------------------------|------|---|---|---|
|                                  |      | 自己評価<br>実践状況  | 実践状況<br>次のステップに向けて期待したい内容   |   |
| <b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> |      |   |   |   |
| 36                               | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている                    | 全利用者を尊重し、声掛けや言葉かけなどゆっくりと丁寧に行い、態度には十分に注意して誇りやプライバシーを損ねないように対応している。 | トイレ誘導時や介助時、入浴時等の声掛けに配慮し、羞恥心の配慮をしている。ご利用者の自慢話等に相槌を打ち、ご本人が優越感を感じるような声かけを行い、ご利用者個々を主役にできるように努めている。島原の優しい方言を使い、声の強弱やトーン、話す早さにも注意している。 |
| 37                               |      | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている                      | 利用者の思いや希望を表せるよう、又、自己決定できるような場面のセッティングと雰囲気作りを心掛けている。               |   |
| 38                               |      | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 利用者優先とし、個々の体調も考慮しながら、希望に沿った支援を行っている。                              |   |
| 39                               |      | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している                                   | 衣類や髪形など利用者の好みを尊重し、その方らしい身だしなみができるよう支援している。                        |   |
| 40                               | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている      | 盛り付けや配膳など一緒に頂き、食事を楽しんで頂けるよう支援している。                                | ホームで3食とも手作りしている。ご利用者も包丁で牛蒡そぎや皮むき、盛り付け、下膳、食器拭き等をして下さる。ご利用者の指導のもと、干し柿や甘酒、梅干し作りを行い、畑の野菜収穫も一緒に行い、車いすの方も見学されている。                       |
| 41                               |      | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている           | 利用者の状態もそれぞれ異なるので状態に応じた栄養を十分に摂れるよう支援している。また、水分を十分に摂ってもらっている。       |   |
| 42                               |      | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている                    | 利用者個々に応じた支援を毎食後、支援し、清潔保持に努めている。                                   |   |

| 自己 | 外部   |   | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|----|------|---|---|--|-------------------|
|    |      |   | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている                              | 排泄表を活用し、個々の排泄パターンを把握して、トイレ誘導を行い、自立に向けた支援を行っている。                       | 布の下着を着用し、トイレで自立している方も多く、職員は清拭タオルを準備し、さりげなく見守りをされている。排泄パターンを把握し、早めにトイレ誘導を行う事でパッドの使用枚数が減り、リハバンから布の下着に変更できた方もおられる。排泄後は温かいタオルで清拭している。            |                   |
| 44 |      | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる  | 食物繊維の多い食材の使用や乳製品を摂って頂けるよう心掛けている。又、運動に参加して頂く事で便秘の改善に取り組んでいる。           |  |                   |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている                             | 利用者個々の体調を見ながら、支援している。また、希望がある方には柔軟に対応し、入浴を楽しんで頂いている。                  | 2018年の浴室のリフォーム後、手すりも増え、滑り止めの床になり、見守り程度で浴室移動できる方が増えている。入浴好きな方が多く、時間帯や湯温等の希望に応じ、湯船に浸かり、職員と会話し、菖蒲湯や柚子湯等も楽しまれている。体調に応じて2人介助を行っている。               |                   |
| 46 |      | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している   | 寝具類は定期的に日光に干し、カバー類は洗濯を行い、気持ちよく眠られるよう支援している。また、室温調節にも気配りしている。          |  |                   |
| 47 |      | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている  | 服薬管理表を作成し、処方箋の内容を保管し、薬の目的や副作用など、全職員で理解し、症状に変化があった場合は医療につなげるように支援している。 |  |                   |
| 48 |      | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている                             | 花のお世話を好きな方や野菜作りな好きな方など、個々の生活歴を把握し、個々の力を生かした支援を行っている。                  |  |                   |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | コロナウイルス感染症の流行以前はドライブや近隣のスーパーへ食材の買い出しに行ったり、公園の花見や散歩など支援していた。           | コロナ以前は法人全体の合同花見等と共に、島原でお雛様祭りを楽しまれ、お弁当を食べながら島原城の花見を行い、「ろくべえ饅頭」を楽しんでいた。フラワー公園でのお花見、島原外港のイルミネーション見学、地元のお祭りに行かれたり、系列の子どもデイとの交流もあり、かき氷を一緒に楽しんでいた。 |                   |



| 自己 | 外部   |  | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|----|------|--|---|--|-------------------|
|    |      |  | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 |      | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している  | 基本的には金銭管理は行っていない。   |  |                   |
| 51 |      | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている   | 希望があれば家族や親戚の方に電話ができるよう支援している。   |  |                   |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室や共同空間は常に換気を行い、季節の花を飾り、外庭には季節の花を植え、生活感や季節感を採り入れている。また、光の明るさも目障りにならないよう、全職員が心掛けている。 | クリスマスは、ホームの外にイルミネーションを飾られている。城下体操や城下音楽療法も毎日行い、ご利用者の日課(家事やレク、エルゴでリハビリ、散歩等)をされており、リビングの神棚の高さを下げ、ご利用者に水や花の取り換えをして頂いている。ご利用者同士の仲も良く、助け合いも行われ、デッキで日向ぼっこやお茶をされている。 |                   |
| 53 |      | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている  | 思い思いに過ごして頂けるよう、デッキや廊下にも椅子を置いている。また、仲のいい利用者同士、一緒になれるよう配慮している。                        |  |                   |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている  | 自宅で使用されていた物を自由に持ち込んで頂き、使い慣れたものを活かして居心地よく過ごせるよう支援している。                               | 昼間はベッドの布団を畳み、お昼寝の時等に再度布団を敷かれている。毎朝、仏壇にご飯をお供えし、お題目を唱える方や、ご自分が育てる野菜を窓から眺める方もおられる。タンス、机、座椅子、時計、筆記用具、電気髭剃り等を持ち込まれ、家族の写真も飾られている。                                  |                   |
| 55 |      | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している   | 居室には大きな名札を貼り、トイレ、浴室、洗面所などにも大きな文字で表示しており、自立した生活を支援している。                              |  |                   |